

台湾で学んだこと（平成28年3月）

空前の「台湾ブーム」だそうです。平成27年の1年間で日本を訪れた台湾人は約368万人で、対前年比約30%も増えています。一方、日本人の東アジア方面への出国者数が、円安や国際関係悪化等で近年減少傾向にある中でも、台湾を訪れる日本人は一貫して増加基調であり、平成27年には約163万人が訪問しています。有名な故宮博物院や中正紀念堂、高層タワーのTAIPEI 101をはじめとした台北の観光地に加えて、九份や花蓮などの特長的な地方都市、そして屋台のグルメや独特のエステ、温泉、お茶など、台湾は様々な魅力に溢れています。そうしたことから、日本の雑誌で台湾特集を行うと完売、と言われるほどだそうです。その人気の高さがうかがえます。

こうした中、岡山県立大学は、台湾中西部にある雲林科技大学と昨年11月に学術交流協定を締結し、学生・教員の相互訪問を中心に交流事業を推進しており、私も、3月に雲林県及び台北市を訪問する機会を得ました。



約9年前に開通した台湾新幹線を利用しましたが、台北空港近くの桃園駅から昨年12月に新設されたばかりの雲林駅までは、所要約1時間です。車窓からの景色は日本とあまり変わらず、しかも車両は日本の技術をほぼそのまま活用しており、車内のつくりや表示は日本とうりふたつでした。各車両の両端には、大きな荷物を置ける場所を乗客のために確保しており、日本のJRでも、ぜひ同様の対応を行って欲しいと思いました。

同大学訪問の翌日には、台北に移動して、市内の調査や2つの大学の訪問を行うとともに、在住日本人の皆さんと懇談することができました。それらから、以下のようなことを教えていただき、正直驚かされました。



○かつて多かった台湾から日本の大学への留学生数は、台湾内の大学数が増え、18歳人口が半減したことから、減少傾向にある。

○台湾では、外国で暮らしている家族や親族は当たり前。また「危機管理意識」が強く、子供2人を留学させる場合、違う国・地域に分散させる傾向にある。

○国際結婚が珍しくない。台北日本人学校では、児童・生徒の親の4割近くが該当する。人だけでなく文化も様々に融合しており、「ダイバーシティ（多様性）」が活力の源泉になっている。

○外国人の移住者が近年急増しており、在宅介護の職を得るためのインドネシアから入国者数は、20万人規模となる。

○人口は約2,300万と多くはないが、購買力平価でみた1人当り所得や、学力レベルの国際比較、女性の社会進出割合など、日本より優れた事項が多い。

○伝統的に親日の人が多く、好きな国はと聞かれて「台湾」と答えた人の割合は、何と、「日本」と答えた人の割合よりも低かった。

○結婚しない若者の増加もあり、出生率が1.0程度と極めて低く、社会問題化している。

○地下道・地下街が、繁華街で縦横に延びているとともに、車道横の歩道をビルの一部として取り込むなど、暑さや降雨の対策に工夫がある。

このように、日本から近くて、日本に似ている、それでいて学ぶことも多い、魅力溢れる台湾。今後の交流の拡大発展に向けて、更に様々な工夫を凝らしていきたいと思いました。